



"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

国際主題 "The Power of One" 「一つとなる力」
アジア区主題 "The Power of One" 「一つとなる力」
西日本区主題 「すべての命を大切に」 --- いのち・平和・環境 ---
京都部主題 豊かな心 熱き思い --- 555実現に向けて ---
メネット主題 「メネットのねがい」を広げ、その喜びを共に分かちあいましょ

クラブ主題
**語り合おう
ワイズで**
思いやり 笑顔

会長 金丸太一郎
副会長 三村 良行
書記 古川 安雄
会計 小泉 洋

イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」

マタイによる福音書 第13章31-32-節



「神様がご不在に思えても」

同志社大学名誉教授 深田 未来生



人間には到底理解できないことが起こります。人間同士の関係のこじれや、野望のぶつかりあいが生む戦争や、心の奥底に潜んでいる屈折したものが原因の犯罪などに私たちはしばしば心を痛めます。そして自然災害があります。地震、津波、台風であり、そして火山の爆発もあります。私たちはそれらをメディアを通してリアルタイムで目の当たりにします。昔のように数日して新聞で読んで知るのは違います。そしてその状況にどう関わっていいのか困惑します。それだけではありません。一体どうしてこんなことが起こるのかと再び頭を抱えてしまうのです。

これ以上の貧しさはないと言われているカリブ海の国ハイチを震度7の地震が襲ったのは今年1月12日でした。その日から刻々と深刻になってゆく被害状況を私たちは茫然と眺めるようにしてテレビに見入っているながら、なぜ、よりもよってこの国、この人々をこれほど強烈な地震が襲ったのかと苛立ちに近いものを感じました。たった900万人そこそこの国民の3分の1の人々が被災し、死者は30万人に及ぶかもしれないというこの悲劇は遠い国の出来事ではなく目の前のことなのです。規模は少々異なっても日本人にはひしひしとわかる自然災害の恐ろしさが私たちの心を痛めます。あの津波の時も、さかのぼれば同時多発テロ事件の時も、私たちは「どうして」という問いを繰り返し自らに投げかけてしまうのです。神の存在を信じる者は神に対して「なぜですか、神様。お留守ですか」と訴えてしまうのです。安易な答えは返ってきません。人間の頭の作業では捉えたり、理解したりできないことがあると私たちは人間以外の存在に何らかの答えを求めます。そして時には悲劇の原因は神を含めて、人間の外側にあると決めてかかります。不自然なことではありません。

とてつもなく悲しく、残酷なことが起こるとそれが科学的解明では理にかなっていてもなぜこの場所、この時間、この人々に起こるのかということは分からないことが多いのです。地震がなぜ起こるかは科学が説明してくれます。しかし、なぜそれがあの貧しい国ハイチで起こり、どうしてこれだけ多くの人々が生命を失わなくてはならなかったのかという問いは科学からは出てきません。じっさい哲学も宗教も明快な答えは出せません。

しかし一つだけはっきりしていることがあります。このような出来事に直面した私たちは自分の領域を超えて苦しみ悲しんでいる人々に何が出来るのかを考え、苦悩する人々と共にその苦しみを担えるように、どんなに小さいことでも出来ることから始める勇気と知恵を願い求めて祈ることはできます。この祈りとはじっとして眼を閉じた祈りではなく、行動を起こしながら、現状を見つめながら神に祈ることなのです。

3月例会案内

3日(水)

訪問例会

みやびクラブの例会におじゃまします。初めて訪問するクラブなので、ちょっとワクワク!

17日(水)

通常例会

再びのEMCアワー：前回から引き続きメンバー倍増をテーマとして、更に一步踏み込めれば。

例会出席

1月第1例会	11名
1月第2例会	14名
在籍者数	16名
出席率	87.5%
前回出席修正	

BFポイント

切手	0pt
現金	28,050円
累計	28,050円

ニコニコ

1月第1例会	19,000円
1月第2例会	3,000円
累計	74,000円

ファンド

	0円
累計	302,965円

強調
月間

EF・JWF

EF・JWFを通して、ワイズ活動を考えよう。

奥田一彦 ファンド事業主任



ゲストに【京都市景観・まちづくりセンター事業第二課長高木氏】をお迎えし、京町家の保全と再生についての講義。京町家の概要から今後の課題と対策まで幅広い内容の講義。専門的な話は避け、素人でも解りやすい様にプロジェクターを使用ながら説明して頂いた。京都市内に約28,000戸現存する京町家。年間約2%の割合で減少を続けている京町家は、単純計算で【約50年後】には全て消滅してしまう計算になる。この現状を危惧した人々（官・民間問わず）が立ち上がり、現在色々な保全・再生の取り組みがなされている。

これら取り組みの一環として京都市景観・まちづくりセンターさんでは、情報の収集・情報の提供・町家ファンドの設立など、京町家の保全を行政の側からバックアップされている。保全・再生には技術的な問題はもちろん、建築基準法・税法などの問題が山積しており解決は容易ではない。しかし、官民共同でこれら諸問題に取り組んでゆけば必ずよい結果が生まれると思います。

京都のまちの歴史の象徴【京町家】。官民の域を超えたこの様な取り組みは他府県では珍しく、いかにも京都らしい活動。文化財建造物に象徴される建築も重要だが、庶民レベルでの【生きた】まちの歴史の象徴である京町家。これら町家の保全・再生は次世代に【京都】を引き継ぐために大変重要な取り組みのひとつだと認識させられる。

最後になりましたが、ゲストでお越し頂いた高木氏に感謝するとともに、本日の例会が【TOF例会】で、食事が【カレー】だった事をお詫びします



2月3日は節分。旧暦によれば節分は一年に4回あり、立春、立夏、立秋、立冬とそれぞれの季節の始まりの前日を指し、立春の前日の節分には社寺で節分会の催しが執り行われ「鬼は外、福は内」と掛け声をかけて豆をまく。この日には巻き寿司を恵方に向き1本丸かじりすると福が来るといふ。ちなみに今年の恵方は西南西。皆の上に福来らんことを祈る。

さて、今日はTOF例会。世界で飢餓に苦しむ人々を助けるために例会の食事を抜きひもじい思いを共有し例会食相当額を献金する例会である。昔は当クラブでも食事を抜いて、例会を執り行ったことがあるが、加齢とともに今は通常の例会食を取り至福のときを過ごすことになっている。しかし、メンバーは例会食相当額の献金をしTOFの運動に参加していることは言うまでもない。

今宵は久しぶりに財団法人京都景観・まちづくりセンターから講師を招き、「京まちや」についての話を聞く。京町家とは「昭和25年以前に建築された、伝統的軸組工法による木造住宅」と京都市は定義している。市内には約5万軒以上の町屋が存在すると言われているが年率2-3%で消滅しビルや新しい建築基準法に基づく家になっているそうである。講師は「町屋とは自然と共生して生活ができる家」と説く。確かについ数年前までは天井裏でねずみの運動会を許し、冬場になれば隙間風と底冷えに耐え、梅雨時期には湿気に悩まされたが、夏場には簾を通し入る風、夕暮れには打ち水をして風情を楽しんだことが思い出される。

住環境の変化は生活様式の多様化を招き、それとともに長年慣れ親しんできた、日常生活に根付く伝統が無くなる一方で新しいものが芽生えつつあるように思う。これもアメリカのオバマ大統領が選挙中に言っていた「変化」であり、国内でも「変化」を求め新しい政権が誕生した事を指すのかもしれない。ならば、Y sdomも時代に即応し新しいY sdomに変わってゆくのも否定は出来ない。しかし、どのように変るのか、その行く末は一重にメンバーの活動に掛かっていると思料する。

東京サンライズクラブからの報告

普段のサンライズの例会では出席者がせいぜい20人を越える位なのですが、2月の例会はサンライズ史上初めてではないかと思われる43人の出席で開かれました。多分卓話者とその話の内容が良かったせいではないでしょうか。お話は長尾ひろみさん(宝塚)の子育て奮闘記 part 2で、養女のアリサさんとの遣り取りのその後でした。2年前に初めてお聞きして、その奮闘振りに皆感激しました。今回はぜひその後のアリサさんとの係わりをお聞きしたく、卓話をお願いしました。出席者は皆等しく感動を新たに、また2年後位にお話を伺いたい。その時はぜひアリサさんと一緒にお越し頂きたいと皆思ったようでした。奇しくも前回と今回、共に同じ会長の時でしたが、次回もまた同じ会長にならないように努めなければならないと思いました。



今日は、いつもとテーブルの配置が違っていた。向かい合わせのテーブルである。まるで、二つの国の外交官同士の会議の場のようなものである。今日は、我ブリンスクラブの未来に向けての討論会である。「なぜ、新入会員をクラブの例会に連れてくる事が出来ないのか？」前もって、メンバーにアンケートをお願いしてある。食事をしながら、そのアンケートに目を通して見る。やはり、否定的なことの羅列である。森EMC委員長の進行によって、進められて行く。まず、ワイズとは、YMCAとは何か？YMCAとワイズとの関係は？このテーマから討論会に入って行く。このテーマは我クラブにおいて、永遠のテーマであろう。ワイズメンで有ろうとするならば、各自がこのことを理解しておかなければならないと思うが、まだまだ各自の温度差を感じる。

ましてや、新しいメンバーにとっては、難しいテーマであろう。YMCAに顔を出した事が無いメンバーが多々いる状況では、いかんともしがたい。議論が熱を帯びてくる。めったに参加しないメンバーまでもが、熱弁である。「こんな話よりも、なぜ入ったばかりのメンバーが辞めていくのか？その理由を知っておられるのですか？私は知っています。その話をしましょう。」僕も聞きたい！しかし、此处で時間切れ！この続きを又例会でやろう。この声が多くあり、3月の例会でこの続きをしていただける事を期待しておひらきになった。

私は、例会が本当に意味のあるもの、来て良かったと思える例会、値打ちが有ったと言わせるような例会を運営する事が、メンバー増強に繋がるのではないかと考えている。そうなるように自分も努力してゆきたいと思う次第である。



「メンバー倍増！一人が一人、新しいメンバーを連れてきたらそれでいいやん！」いとも簡単そうな事ですが、実現されないのが現状です。では、どうすればそれを実現できるのかを討論するのが、今回のEMCアワー。例会の時間を有効に使う為に、事前にアンケートを実施しました。

「あなたが、メンバーを誘う時のネックとなっているのは何ですか？」残念な事にアンケートの回答には、現状への不満が見え隠れし、設立当初のブリンスクラブの理念やモットーは、木っ端微塵に吹き飛ばされている様に思えました。まずはここからだなあと思い、次のような文章をホワイトボードに書き、「ワイズメンズクラブの説明は、これでいいですか？」、「私には、3か所ほど納得できない個所があります。」と問い、討論の口火を切りました。

『ワイズメンズクラブは、青少年育成団体である「YMCA」の活動を支援することを第一の目的として、地域・国際社会に奉仕する国際的なボランティア団体です。』当初は、この口火に沿って活発な意見が交わされていたのですが、YMCAやボランティアに対する関わり方の違いが表面化するに連れて、現状への不満へと矛先が変わり、ブリンスクラブは何ら魅力的なビジョンを持っていない云々という話題になったところで、タイムアウトとなり、3月の第二例会でこの続きをやりたいとの声があがりました。



車椅子駅伝サポートボランティアに参加して

2010年2月21日
永濱 貴章



去る2月21日(日)、第21回全国車椅子駅伝が多くの団体、企業の協賛の元、早春の都大路を舞台に開催されました。我ブリンスクラブからも、5名のメンバーが、多くのボランティアに混じって参加してまいりました。今回もチーム全員(5名)で「タスキ」をつなぎ、私たちに多くの感動を与えて頂いた様に思います。最近に無く、非常に暖かく、選手の方々も暑くて大変であったろうと思います。朝8時半から集合し、お昼は西京極スタジアムで昼食、そして閉会式、最後は京都駅まで送り、家に着いたのは夕方5時前でした。慣れないワークで、体中がガタガタに成ってしまいました。一位 京都A、二位 大分、三位 大阪、という結果でありました。我京都が優勝されたという事は大変嬉しく、ボランティアとして参加した喜びを多に感じた次第です。今後とも、本大会が益々発展し、障害者スポーツの理解促進とボランティアの皆さんとの「心の絆」親睦を深める事に繋がるよう、願うものであります。



京都エイブルワイズメンズクラブ20周年記念例会

三村 良行



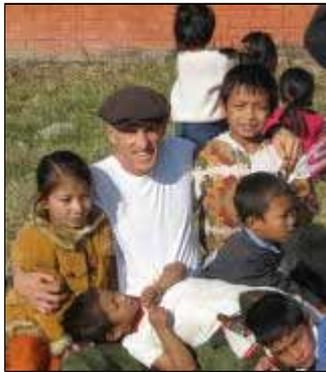
京都エイブルワイズメンズクラブ20周年記念例会が2月20日(土)に京都ホテルオークラにて開催され、当クラブより金丸会長、岡西、西村両ワイズ、神崎総主事そして私の5名でお祝いに寄せていただきました。

記念の式典は、2部形式で構成され1部は16時より宇宙アカデミーきくやま代表の菊山紀彦氏による記念講演で開会、講演内容は「若田さん、国際宇宙ステーションに滞在」「守ろう地球・めざそう宇宙」で宇宙ステーション滞在時のお話など興味深いものでした。

講演の最後で参加者に語られた宇宙から見た地球及びその地球を取り巻く環境の変化などを問題提起され当日参加されたメンバーそれぞれが今後の生活や活動に生かしていかなければと思いました。2部のスタートは京都学生祭典実行委員会の学生さん達による「京炎 そでふれ！」演舞、若さあふれる演舞を見て羨ましく思いました。来賓の方々も鈴木誠也西日本区理事をはじめ多くのワイズ関係者が集われました。ワイズ関係外では 宇治市長久保田勇氏、宇治市社会福祉協議会会長伊藤義明氏などが御来賓として参加されていました、このことはエイブルクラブの20年間の実直なCS活動の評価ではないかと思ひ称賛させていただきます。当日180名程の参加者が居られましたが、親、子、兄弟関係のキャピタルクラブ、トップクラブ、東稜クラブそしてDBC富士クラブ、IBC韓国中都クラブより沢山のメンバーがお祝いに駆け付けられエイブルクラブのメンバーも感謝されていることと思います。我がプリンスクラブ同様エイブルクラブもメンバー数減少に苦しんでおられますが、我々もがんばりますので今後エイブルクラブますますの発展を念じます。ありがとうございました！

YMCAって何してるの？ どんな人が居るの？

マックス・ドット



こんにちは、マックス・ドットと申します。10数年前から京都YMCAに勤めています。私の仕事としては、まず英語課ではレッスンをしたり、カリキュラムを作ったり、先生を面接したり、教科書を選んだり、保護者と話したり、生徒のレベルチェックをしたり、サンプルレッスンもしたりして、日と時期によって毎日違うことをやっています。子供から年寄りまで沢山のひとと対話が出来て、やりがいのある仕事です。

去年の2月に二人の研修生(YMCAのリーダー達)とインドに行ってきた。あんまりにも刺激でした。貧困と豊かさの差、人込み、食べ物、ライフスタイルなど、全ては極端でした。ランチYMCAのプログラムを色々見られて更にYMCAの大切さを感じました。

4年前、友人の力も借りてスポンサーファミリーの寄付を集めて、カトマンズのYMCAを通してラリグラス・チルドレンズ・ホームが出来ました。11月に訪問して改めてYMCAのコミュニティーサービスの重要さを感じました。京都のスポンサーとカトマンズYMCAの協力で、10人の子供達が毎日ご飯を食べられて、勉強出来、そして、安全に暮らすことができています。

毎年、何回か音楽や他のイベントでお金を集めています。スポンサー達の寄付と合わせて、生活費や必要なもの(去年は発電機)を援助しています。草の根レベルで色々出来ると実感しています。誰でも、ちょっとした努力でプラスになれるということを広げて行きたいです。

メンバー自己紹介コーナー 北野功治です



天文にかかわりだして、すでに三十数年が過ぎました。最近自分から主体的に星を見ることがめっきりなくなり、趣味というのが恥ずかしいぐらいです。しかし、天文に関わってきたことは、わたしにとって大きな財産になっています。

町の一般の同好会や大学の同好会で活動する中で、先輩方に多くを教わりました。また、知り合った仲間たちとの楽しい思い出も忘れられません。パソコン通信の天文フォーラムで知り合った方々の中に、森ワイズがおられてプリンスクラブとの出会いにも繋がりました。プリンスクラブのメンバーの皆さんと知り合えたことは、わたしにとって実に大きな財産であり続けると思います。今後共よろしくお願い致します。

国際大会に向けて パート

今年の横浜で行われる国際大会は、1988年の京都で行われた大会以来、久しぶりの日本での大会です。我々、日本のワイズメンにとって、とっても誇らしい事なのです。我々のワイズメンズクラブというものが、国際的な組織である事を認識できる最高の機会でもあるのです。大阪のあるクラブにおいては、新入メンバーは必ずその年の国際大会に出る事を半強制的にされているとも聞きます。我々クラブにおいても、この機会をチャンスと捉え、再生プリンスのスタートとなることを期待します。今回の横浜大会に、みんなでそろって出席しようではありませんか。大いに楽しみましょう！

今春も多くの青年たちが巣立って行きます。リーダーとして活動していた若者や専門学校で学んでいた学生が、それぞれ新しい社会生活に旅立って行きます。ある者は就職、ある者は大学院や留学、そして留学生のある者は帰国するなど新しい生活をスタートさせます。さびしい気持ちはもちろんですが、YMCAで過ごした期間での体験や学びによって大きき成長した一人ひとりの姿を見るにつけ、本当に嬉しくなり顔がほころんでしまいます。そして心の中で「がんばってね」と思わず声援を送っている自分に気づきます。

さて、YMCAのお昼のロビーはスイミングスクールの子どもたちと保護者の方々がたくさんいらっしゃいます。その中には、リーダーのOB・OGや専門学校の卒業生、そして昔メンバーだった方々も多くおられてしばしば声をかけてくださいます。ある方は、まだ新しいメンバーの保護者の方にYMCAのオリエンテーションとキャンプなどプログラムの宣伝をしてくださっています。また福祉、教育関係の会合に出ますと同様に多くの顔見知りにお会いしたり、私がYMCAの関係者とわかると「昔メンバーでした」と「リーダーでした」と話しかけてくださいます。全国各地のYMCAに訪問すると何人ものリーダーOB・OGにお会いし、それぞれ活躍されている様子をお聞きます。

四月にはまた新しい青少年がYMCAにやってきます。楽しい季節が始まります。彼、彼女たちの活動へのご支援をお願いします。そして、成長を共に喜びあえることが出来ますように。

1. 2009年度卒業生リーダー祝会のお知らせ

今年も多くの少年リーダーが社会に巣立とうとしております。YMCAでの活動に捧げていただいた労力と時間は、明日をつくる子供たちの大きな糧となったに違いありません。情熱ある働きに感謝するとともに、YMCAでの経験が今後活かされることを祈るとともに祝いたいと思います。

時 3月14日(日)午後2時～5時30分(受付1時30分)
会場 京都YMCA三条本館1階ロビー及びマナホール

2. 新年度プログラム募集

子どもたちのウエルネスプログラムの新年度参加者募集中です。ご参加をお待ちしております。

スイミングスクール・体育活動 申込み・問合せ
電話075-255-4709

グローバルアウトドアクラブ 申込み・問合せ
電話075-231-4388

3. 京都YMCA発達障がい児理解セミナー

市民の方々が理解を深め、軽度発達障がい児が健やかに成長できる社会作りに貢献できればと願いセミナーを開催いたします。幅広い方々のご参加をお待ちしております。

日時：3月20日(土)午後1時30分～午後4時

場所：京都YMCA三条本館

・「5才児発達相談の現場から」講師：小谷裕実〔花園大学社会福祉学部臨床心理科教授、小児科医〕

・「早期支援から小学校へ」講師：相澤雅文〔京都教育大学附属特別支援教育臨床実践センター准教授〕

参加費：1,500円

4. リトリートセンター・サバエキャンプ場夏期利用案内

自然いっぱい心が安らぐリトリートセンター・サバエキャンプ場では夏期(7・8月)の受付を下記日程で行います。ご利用ください。

30名以上 3月10日(水)午前10時から

30名未満 3月12日(金)午前10時から

リトリートセンター2010年4月～2011年3月まで

(7・8月を除く)のご利用は只今受付中です。

5. ボランティアセミナーのご案内

がん患者さんとそのご家族へ 第38回 苦しみ、悩み、不安を共有しませんか。この会は患者さんとそのご家族が抱えている苦しみや悩みについて、患者さん同士、そのご家族同士が話し合い、がんとうまく付き合うための情報交換の場です。

日時：3月20日(土) 午後7時～9時

場所：京都YMCA(三条柳馬場)

参加費：300円/人(お茶代等)

申し込みは電話(075-231-4388)又は

vb@kyotoymca.or.jp

Happy Birthday

March

7日	西堀 和之 ワイズ
9日	西村 博 ワイズ
16日	三村 良行 ワイズ

今月のスケジュール

3月

3日(水)	みやびクラブ訪問例会 セントノームH
7日(日)	廣井杯ゴルフコンペ ジャパクラシックGC
13日(土)～ 14日(日)	次期会長・主査研修会 チサンホテル 新大阪
14日(日)	リーダー卒業祝会 マナホール
17日(水)	EMCアワー例会 グランドプリンスH
24日(水)	役員会 京都YMCA

役員会報告

<承認された議案>

ファミリー例会登録費
メン：2,500円 メネット&コメット大：4,000円
コメット小：1,000円
ファミリー例会コメット補助金1,500円をニコニコより拠出